

令和8年度 開南大学夏期中国語/英語・台湾文化研修 報告書

総合管理学部 総合管理学科 ビジネス専攻 2年

久保玉井 祐花

私は8月16日から30日までの15日間、台湾の開南大学の語学・文化研修に参加した。初めて海外に行った今回、渡航前の不安な気持ちは良い意味で裏切られ、楽しく、充実した留学になった。

【授業】

私は英語クラスに参加した。週に5日、一日2コマずつの授業を受けた。共に参加した学生は20名弱おり、初めて顔を合わせたときは皆ぎこちなかった。しかし、台湾出身の Ava 先生は、私達に「留学という大きな挑戦をしているのだから、恥ずかしがらずに思い切ってやりきりなさい」と声をかけてくれた。授業と文化体験・自由時間があつたが、先生は私達が参加する体験プログラムや観光に行く場所を授業の内容にまとめ、体験前にその概要が分かるようにしてくれた。また、台湾のお菓子などを毎回プレゼントしてくれた。先生のおかげで実際に食べる体験がたくさんできた。毎授業、前日に行ったことを英語で話す時間やクラスメイト達と会話をする機会があった。クラスメイトには留学経験が豊富な学生もいて、不安もあつたが恐れず、自分の持っている英語のスキルとコミュニケーション力でクラスメイトや先生、現地の学生チューターとも仲良くなった。



写真1: 英語クラスの先生がくれたパイナップルケーキ

【成果発表会】

英語クラスは15日間の思い出の1分発表と英語の歌を披露した。私は使用する音源の編集を行ったほか、歌の披露と一緒にギターを弾いた。自分が持っているスキルを留学期間に活かしたことは、大きな自信につながった。歌と共にダンスを披露する曲もあった。クラス全員で必死に英語の歌詞を覚えて、スムーズに歌いながら踊れるように何度も練習を重ねた。本番では、練習してきたパフォーマンスを100%発揮できた。1分発表でも、学んだ事実と感じたことを自分の表現で、英語で発表を行うことができた。



写真2: 成果発表会の様子(中心が作成者)

【文化体験・観光】

台湾には原住民族がいたことにちなんで、その装飾を活かしたキーホルダーづくりをした。私はこの体験と授業内の学習で台湾には原住民が16種類もいることを知った。学内のキッチンでビーフン作りをしたり、現地の夜市で名物グルメを食べたりと、台湾を満喫した15日間を過ごした。

【感想】初めてを多く経験したこの期間は、台湾の人の優しさや伝統文化に触れた。街を観光して英語より華語の方が通じると感じ、次の機会には華語を勉強してから行きたいと感じた。本留学が海外へより興味を持つ大きなきっかけになった。変わらず挑戦を続けたい。



写真3: 原住民族風キーホルダー